

第1回 2019年度 全国の公立入試 最新の出題傾向(国語・数学・英語編)

■2019年度 全国の公立入試の総括を「教科別」に「特徴」・「難易度」・「注目点」に分けて説明します

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年との比較)	その他、注目点
国語	資料読み取り型の作文は増えているが、書かせるのは自分の意見である場合が多く、凝った設定の問題は少なめに。	特に大きな変化はなし。	「資料」「会話文」を用いた表現に関する問題は増加。読解では、「メモでまとめる」「授業で話し合い」などの設定で考えさせる問題が増えている。
数学	計算・一行問題が全国的に易化傾向にあり、前半と後半の難易度差はより明確に。大学入試改革の影響で日常生活をテーマにした問題は増加。	難易度や問題の傾向は落ち着いてきたため、大きな変動はなし。	条件整理が必要な長文の問題。複数単元の融合問題は増えつつあるが、全国的には典型題が大半を占め、「確実な知識を問う」傾向が強い。一時増加した記述問題は減少傾向。
英語	英文読解は時事的なテーマを扱うものが定番となり、内容も難化。設問は文法的な知識を問うよりも内容把握を問うものが主流になってきた。	大学入試改革の影響(4技能重視・日常生活に直結)もあり、全国的に難化が進んでいる。	読解問題で単語の訳注が減っていたり、単語補充問題が増えたりするなど「語彙力」がかなり重要視されるようになった。英作文は「意見作文」「文化の紹介」「絵を説明」が同程度の割合になってきている。

■これから受験する皆さんへのアドバイス

国語 文章読解では、小説や説明文以外に、パンフレットやレポート・新聞記事など日常的に見る資料を読んだ生徒の感想や意見を見て答える形式の問題も増えてきています。新聞や学校でのレポートなどにも注意を払って、「この資料が読者に伝えたいことは何か」を提示された文章の中から読み考えるようにしましょう。また、漢字の読み書きの問題で難易度が増えています。漢字検定などを活用し、幅広い漢字問題にもチャレンジするようにしましょう。

数学 1次関数・確率・資料の整理などの思考系の問題は、問題文を長くしてあえてミスを誘うような問題形式を多く見られるので、問題文で「何を」聞かれていて、「どのように」答えるのかといった「提示された問題に対する確実な知識を問うこと」を意識した問題演習が求められます。また、今年は計算・一行問題などの基本問題の割合が増加し、易化傾向にあります。数学が苦手な生徒は計算・一行問題を確実に正解することを最優先課題としましょう。

英語 リスニングや英作文は難化傾向にあります。問題や選択肢を英語での表記することは今後スタンダードになる可能性あり。英文読解は時事問題を絡めたテーマで出題されることが多く、また今年の問題傾向から見ると「単語補充問題が増えている」など「語彙力」が重要視されていることが分かります。そのため、知識は常日頃から自分で得ることが求められます。4技能(読む・書く・聞く・話す)を推進しているので、英語検定など検定試験を早いうちに受験し、取得しておくことが重要です。理想は中3で準2級を取得。高2で準1級を取得することです。(数年後、これが高校入試・大学入試のスタンダードとなるでしょう)

